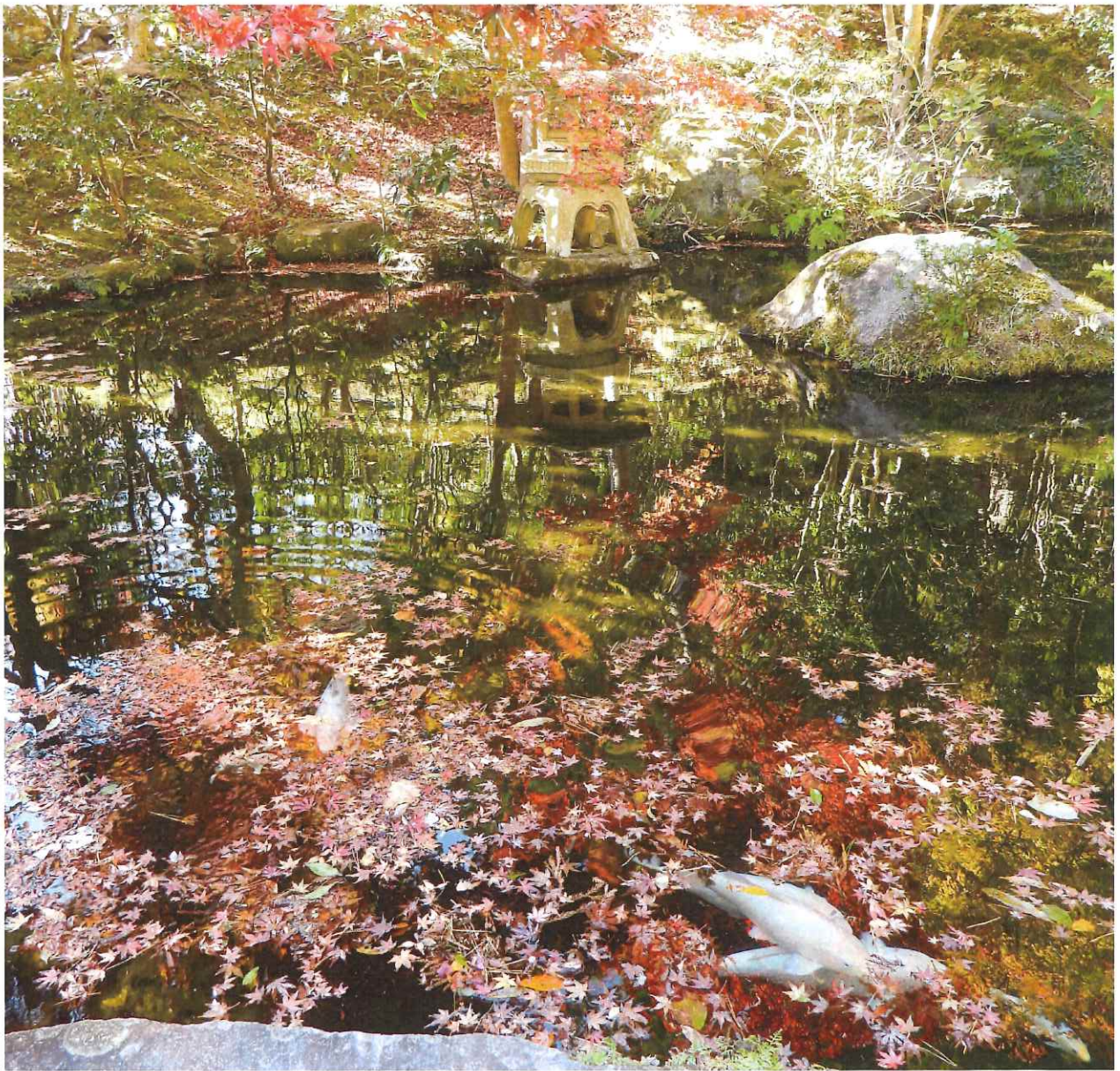


道

*m i c h i*



12

2023 No. 67

## 救世主は誰だ

この標題はずいぶん変わっていると思う。無論読者もそう思うであろう。この問題について、以下私というものの心理描写を書いてみようと思うのである。ここで前もって断っておきたいことは、私自身の内面的心の動きを客観的にみ、いささかの虚構のないことを主眼としたのであるから、読者もそのつもりで読まれんことである。

救世主すなわちメシヤなる言葉は、洋の東西を問わず、時の古今を問わず、いかにいい古されたことであろう。全人類待望の救世主なる超人間的力の持ち主が、現実はこの世の中に生まれるべきものであろうかということであるが、一部の宗教信者を除き、世界の大多数者は、単なる理想的希望でしかない、大きな夢でしかないと思っていると見るのが間違いないことであろう。もっとも俺は救世主だと誇称する人も稀にはあったが、時の推移とともにいずれも消えてしまうにみても、未だ真の救世主は表れないことは明らかな事実である。

私は自分から救世主と名乗ることは好まないのである。とって救世主ではないと断定することもできえないというのが偽らざる告白である。実に救世主出現ということほど重大なる問題は、人類史上かつてないことはいまさらいうまでもない。この意味において決して軽々に論議すべきではないことも勿論である。ひるがえって考うるに、救世主出現は単なる人類の理想と極めることもできえまい。何となればキリストの再臨もメシヤの降臨も、ミロク下生も、往昔の聖者が予言しているにおいておやである。故に、いつかは出現の可能性のあることを信じないわけにはゆかないのである。

これから私の心理描写にとりかかるのであるが、私は救世主の第一条件として以前から考えていたことは、なによりもまず人間の病気を解決することであって、人間の健康を完うし天寿を得させるということの絶対的方法を授けるとともに、それへ具体化する力を有する——その資格こそ救世主としての最大要素であらねばならない。勿論肉体の健康と相俟って、精神の健康が伴わなくてはならないのである。

ナザレの聖者キリストの曰った、「汝世界を得るとも、生命を失えば何の利かあらん」という有名な言葉によってみても明らかである。この意味において、人類から病気を滅消し得る力のない宗教も、宗教家も、その価値は限定的のものしかないといえるであろう。私はこの理論を常に抱壊していたのである。しかるに、私が信仰生活に入って十数年を経た頃のある日、病気の根本原理と、その解決法とを知り得たのである。嗚呼、そのときの私の驚きと喜びは、何人も想像はなしえないであろう。何となれば今日までの世界の人間のうち、これほど大きな発見をしたものは絶無であったからである。いかなる大発見も大発明も、この事に比較すれば問題にはならない。実に私というものは何たる不思議な運命を持って生まれたものであろう。

(昭和23年10月20日)



無準師範墨跡「帰雲」二大字 中国・南宋時代(13世紀)

重要文化財 MOA美術館所蔵

無準師範(仏鑑禅師1178~1249)は、中国南宋時代の禅林中、最も傑出した禅僧である。中国五山第一の径山(きんざん)万寿寺の第34世を嗣席し、止住すること20年、法幢を高く掲げて内外に名声を馳せた。また、時の皇帝理宗に召されて禅の要諦を説き、仏鑑円照禅師の号を賜った。わが国の学僧も多くこの門下に参学し、京都東福寺開山弁円円爾(べんえんえんに)(聖一(しょういつ)国師)がその法を嗣いだことは特に有名である。この因縁により、東福寺には円爾へ贈られた無準の墨跡が多く伝来し、額字19点などが現存している。正和5年(1316)に作成された東福寺古文書の『仏鑑禅師御筆額字目録』には46点の額字の名が見え、古く寺外に出たものが少なくないことがわかる。本図の墨跡も、そのうちの一つと思われ、堂額などに用いる原本と推定される。後に徳川家の柳営御物(りゅうえいごもつ)として伝来した。

(MOA美術館・箱根美術館 名作美術品カレンダーより)

## 《目次》

代表挨拶	4
感謝奉告①	10
感謝奉告②	12
聖地NOW	13
新穀感謝祭(熱海)	14
神仙郷建設物の文化財登録	15
シリーズ明主様(10)	16
感謝奉告③	18
感謝奉告④	19
感謝奉告⑤	20
感謝奉告⑥	21
シリーズ《幸せの種まき》(6)	23
令和6年聖地行事	24
教団柱石之神霊年祭のお知らせ	25
お知らせ	26

表紙の写真 瑞雲郷お池の鯉と紅葉

令和5年 課題

われよしの 心浄(きよ)めて ひとよかれと

祈る心は 神に通へる

く明主様の示された「道」を求め、まっすぐ歩むく

### 代表挨拶

西村 正資

大空おおぞらに 崇高けだかく 聳そびゆる 富士嶺ふじがねは

深ふかき 仕組しくみの ありと 知しらずや

(昭和二十七年十二月三日 明主様詠)

冬の陽だまりがことのほか暖かく感じられる聖地瑞雲郷ですが、皆様の地域ではいかがでしょう。

「光陰(こういん) 矢の如し」

今年も、はや師走半ば、特別の事はなくてもなぜか

気ぜわしきを感じております。

皆様におかれましてはこの一年、明主様に倣い、向上を目指して、周囲の方々にご浄霊のお取り次ぎやご案内にと、誠の籠るお取り組みをいただきました。

月々の当機関誌「道」に掲載される感謝のご奉告に、また聖地に直接寄せられるご祈願やご守護の御礼に、皆様の信仰の息吹を強く感じさせていただきました。そのような中において、昨年を上回るご守護や会員の増加等、さまざまな喜びごとが多く許されました。

皆様の誠のお姿が、明主様のみ心に叶い、お喜びいただけたと、受け止めさせていただきました。箱根神仙郷

また、大変嬉しいご報告がございます。箱根神仙郷の山月庵、日光殿、美術館本館、別館、休憩所が、文化審議会より国の登録有形文化財とするよう答申されました。これで平成一三年に登録された神山荘と合わせ、境内の六施設が文化財と認定されることになりました。庭園が、国の名勝指定を受けたのは、令和三年であり、明主様がお造りになられた天国の雛型が、霊体ともに一段と大きな広がりをもつこととなります。

『道』一一月号、感謝奉告に学ぶ

神戸須磨集会所のNYさんです。

一〇月二二日、二三日に開催された「神戸須磨集会所

所開所一周年祭」におけるご奉告です。

集会所施設の大家さんとして、この一年を振り返えられました。タイミング良く空き家となり、リフォーム中に集会所の話しを受けられました。建物は、5年前に知人から勧められ、深い考えもなく購入されたようですが、「今にして思えば、神様が前もってご用意されたのだ」と受け止められ、「現在起きていることは、未来に必要なだから起きている」と覚られて、神館としてお使いいただけただけ喜びを奉告されています。

人生にはいろいろな「構え」があるように思います。ものごと真つすぐ柔軟に向き合う人、避けて逃げて歩む人、自分の考えを押し通そうとする人、等々です。Nさんは改めてご自身の構えを「何ごとも神様が用意されたこと」「それは未来に必要となること」と、真正面からのあり様で受け止めることの大切さを学んでいらつしやいます。日常のすべての奥に、神様の思召しがきつとあるのだと信じ、自分にとって都合の良いこともそうでないことも「幸せへの近道」と受け止められる前向きの姿勢が、普段のNさんからも爽やかに感じ取ることができます。

奥様と死別され、やりきれなさにもだえ苦しんだ経験も、み教え拝読を通して「社会には突然に家族を亡くす方も多い中、自分は半年間妻の世話が出来た。思い悩んだお蔭で、今は思い残すことは無い」という覚

りに至っていらつしやいます。そこで「苦悩やはんもんとという呵責かしやくを取り去るには「感謝する」ことだ」と、気づかれたのです。

人は生きていく限り、悲しみや痛み、怒りや後悔等々を経験します。しかし、何があつても最後に行き着かねばならないところ、それは「感謝」というゴールなのだということですね。その感謝も、強制ではなく「何故感謝なのか」という「そこに至る道程に気づく」ということなのですね。Nさんは、とても大切な人生の構えを築かれました。

これでは、霊的闇の存在もつけ入るスキが無くなりますね。今後も、日常生活や人生の羅針盤として「み教え拝読」を大切にして歩んで下さい。

淡路グループのMHさんの「神戸須磨集会所開所一周年祭」におけるご奉告です。

三八歳の時、突然右足が痛くなり、整形外科で「変形性股関節症」と診断されました。当時は家業や子育てが忙しく、勧められた治療はとて受けることができず、聖地の大祭に参拝することと布教所参拝、そして浄霊がすべてだったと回顧されています。その時は、お蔭をいただかれて徐々に痛みは取れたそうです。

今年三月一日、足に突然激痛が走り、食事すら摂れない状況で、近くに住むUさんから毎日浄霊をい

ただかれました。当然ながら不安で一杯だったそうですが、今回もご浄霊のみで取り組まれ、六月初めには、完全に痛みも無くなり、もとの日常生活に戻れたそうです。人生に夢や希望という大きな光明が、再び輝きました。近くにUさんという、素晴らしい信仰仲間がいて下さり、本当に良かったですね。仲間の存在は大切です。私たちの厳しい体験は、自分の成長に必要なものとして、あえて与えられたのかもしれない。人は、自分が辛い経験をする時、同じ苦しみを抱える人々の存在に気づき、心を寄せられるようになります。

五月に友人のAさんから電話があり「左の腕が痛くて上げれない。接骨院にかよっている」という話を聞き、Mさんは躊躇せず、直ぐ浄霊のお取り次ぎを始め、いらつしやいます。誠の愛だと感じました。

### 『愛を説き 慈悲論すとして行ひの』

#### 伴なはざれば浜の松風』

不思議と自分と似た症状の方が引き寄せられて来るのです。明主様から「必ずや浄霊を取り次いでくれるだろう」と、信用が厚いでしょう。

Aさんは、浄霊を取り次ぐ度に「体が熱くなる」と仰り「良くなってきました。他人の幸せのために努めて、先方にお喜びいただくという事は、何にも代えがたい嬉

しさと充実感をいただきます。不思議なもので、自分がいただいた喜びは、忘れる事があっても、他人様に尽くして許された喜びはしつかり心に残るものです。

Mさんは、最後に「明主様に心を向けて、利他愛の実践に心がけて、日々を過ごしていけたらいいな」と、締めくくられています。そうした心がけを持たせていただくことで、明主様からも役に立つ大切な弟子として処遇され、天国的世界も許されていくのではないのでしょうか。

今後益々のご活躍を、楽しみにいたしております。

鳴門グループのOKさんのご奉告です。

Oさんは、先々月も自然農法に掛ける思いを中心に、ご奉告下さいました。感謝や決意、そして実践の奉告等々、いきいきとした信仰の躍動を感じました。

この度は、一〇月七日、聖地平安郷へ一〇年ぶりにご参拝になった感謝の奉告です。

ご参拝には、亡父の妹である叔母さんもご一緒されたようですが、いつも口癖のように「お前は、実父が亡くなる四日前に生まれた子供やから、どんなに不憫だったか」と言われ続けてきたもので、今回も「また、いつものことを」と、つい諦めの境地になりかけていたようですが、この度は、何故か「何か意味があるのでは？」と、思わされたそうです。すると不思議に

「焦りや憤りに似た気持ち」を感じたそうで、そこから「父が亡くなった時の戸惑い、その思いを分かちあげなければ」と気付かされ、初めて神様にそのことをご奉告されたのでした。

その直後に「大変ありがたい」という気持ちと「感謝」が、心に湧いてきたということです。亡きお父さんとの心の交流が一段と強くなったのですね。

人はさまざまな特性を、神様から与えられています。Oさんは、霊的感性の強い方なのかもしれません。そのことが良いか悪いかではなく、「その個性を通して、自分の人生の役割りや使命を求める」ということが、大切ではないでしょうか。いつもなら聞き流す叔母の口癖を、聖地参拝の前に「何か意味があるのでは？」と思えたことも、守護霊による働きかけなのではないでしょうか。そのように、心を澄ました時に感じたのは、長年亡きお父さんが、ご自分の存在や愛情が、我が子に通じない焦燥感だったのでしょうか。その後、Oさんの心境に「家の奥の奥にある何かが綺麗になった。究極のご守護では」と感じられたそうです。

また、この度の聖地参拝は、家業である種苗店の方性（自然農法、自然食）の新たな出発とも感じ取れました。明主様も「楽しみな弟子が誕生した」と、お喜びでしょうね。霊界からのご支援もきつとあるものと信じます。自然農法のご神業は、これからが正念場

です。腹を据えて、半歩一歩と進んでまいりましょう。

名古屋栄グループのKHさんのご奉告です。

Kさんは、四月まで旧主之光教団に所属され、重要な立場で活動をされていました。

しかし、そこで学ばば学ぶほど、明主様から離れていくようで、いつも不安を感じながらも「これも明主様のご用」とご自身を諭され、活動していたそうです。

そんな中、グループのIさんが「明主様の信仰を学んでいきたい」と、昨年一二月に「明主様と聖地に直結する会」に移られました。それがきっかけで、当会の話聞く機会が生まれ、「何を信じて、今後どのように生きていったら良いのか。自分を見つめ直す良い機会を与えられた」と、感謝されています。

そして五月、以前お世話になった先生が、聖地直結の会に移られたことを機に、ご自身も当会に所属されることになりました。

このようなお話を聞かせていただく度に、私は、不思議な流れ（ご縁）を感じます。「渡りに船」というのかKさんの心境や行動に合わせるかのごとく、周囲に道が生まれるのです。そして、明主様のみ許に還っていらつしやつたのです。

「神様は、とても根気強い」と、大変失礼ながら思うことがあります。み教えによれば、主神様は、この世

界を創造されて五六億七千万年、その間ずっと地上に天国をお造りになるため、私たちの成長をひたすら待たれているのです。そして、神様を信じ道を求めようとする者や周囲の仲間を支えようと努力を始める者が現れると、大変お喜びになり、そこで「時が来た」とばかりにみ手を差し延べられ、導きにお入りになるのではと、Kさんを見ていてそのように思いました。

Kさんは、その後の平安郷参拝で、明主様の気配を身近に感じ、改めて魂の進歩向上を意識され、「明るく、楽しく、心裕かにご用にお仕えさせていただきたい」と、決意を述べていらつしやいます。

これからも、明主様を真つすぐに見つめ、み教えに基づき生き方に努めようとすれば、必ずやあるべき道をお示し下さり、共に歩み、天国へのご案内をして下さるものと信じます。

ご挨拶の冒頭にも述べましたが、今年もたくさんのご守護をいただき、喜びを許されました。

同時にさまざまな活動の中で見えてきたのは、元主之光教団の多くの仲間が、未だ道に迷われ悩まれて、明主様との距離が次第に大きく離れていつているという現実でした。そこで悲しみや焦りを覚え、己の無力さを痛感したのは、私ばかりではないでしょう。

社会を見回してみると、国内では岸田政権の支持率

が大きく下がってきております。国民生活への不安や不満が増大していることの表れではないでしょうか。

世界を見渡しても、今年は一億一千万人（世界人口の約七三人に一人）が、紛争や食料危機、環境変動や自然災害、雇用問題等々で故郷を離れ、着の身着のままの「新たな難民」になったと、NHK特集番組「混乱の世紀」で報道されました。先進国は、難民の増大に対応しきれず、次第に利害優先自国民優先の政策に向かい、他の命の尊厳を軽んじ、問題を解決するということに無関心になりつつあると警鐘を発しています。

世界的には、生きることへの厳しさが、年一年と増してきているように感じます。「自分如き者に何ができようか」と諦めることは、明主様からご覧になると「傲慢な人間」と映り「み教えをよく読んでみなさい」と、仰るのではないのでしょうか。

み教えには、神様がお進めになる地上天国建設の道筋が明確に示されています。

明主様が、万物創造の主神より地上天国建設を命じられているのは、ご存知の通りです。その明主様の信徒である私たちは、建設のみ手足としてお手伝いすることが期待されているのです。

『万物の 霊長なる人に課せられし』

神の使命は地上天国建設』



『信者さんが一人々々居ますが、この中で、一人で何百万、何千万の型をやっている人が居る（中略）私は、〇〇の型、〇〇の型と良く言ったものです。その人を救うと、その系統の人の数が、ずっと多くなって救われる。その次に、その又一人々々が救われる。そう言う風に世界は出来ている』

（御教え集三号 昭和二六年一〇月一日）

天国を創造される明主様の信徒の姿は、『雛型』として、世界すべての人々に通じる霊的な影響力を持たされているということです。

「健康な者が、病む人を癒し」

「もてる者が、困窮者を支え」

「経験と知恵ある者が、迷い争う人々を善導する」という、社会が共存共栄していくための理想的姿を、『雛型』として体现されることが、信徒に求められているのではないのでしょうか。それは、特別な世界での活躍ではなく、各自の日常生活の中での努めなのでしよう。私たちの姿勢が、理想的な魂の姿人の生き方と、明主様に認められた時、それが大きな霊的影響力をもって世界の多くの人々の魂に反映され、天国化が徐々にはかられていくのだとみ教えいただいています。

ささやかな自分の営みが、多くの人々の霊界に影響を与え、苦しみの解消や新たな社会の創造にお役立ただけ、神様の地上天国建設の一翼を担わせていた

だけると知れば、こんなに有難く勿体ないご用はありません。しかし、感謝こそすれ、『自分が』というよな思い上がる想念をもった時に、その資格を失うという厳しさも忘れてはならないようです。

多くの方々の幸せのために、自分にも『きつとできることがあるはずだ』と、絶えず謙虚に問いかけを続けることこそが、その第一歩であると信じます。

当機関誌に感謝奉告を投稿された皆様も『明主様のお手伝いをしたい』と決意されていました。明主様は、『たくさんな人呼び寄せては、一人も残らずお試しになり、すぐにすぐりこの人はという人だけ残し、そういう人達で固めて建設される』

（講話集 昭和一〇年）

と仰っています。そのような『雛型』として取り上げられる信徒が、もつともつと多く誕生することを願っています。

『明主様御生誕祭』が目前になりました。本年許された喜びごとにしつかり「感謝」を申し上げたいと思います。同時に『明主様がお諮りになる世界の天国建設に、私もぜひ参加させていただきます』と、改めて祈らせていただきたいと思います。

皆様の新たな一年にも、明主様の光輝く導きのみ手が現れますよう、お祈りさせていただきます。

## 感謝奉告 ①

### 聖地宿泊奉仕研修会に参加して

田川布教所 A J

昨年の京都の研修会に続き、今年は熱海の研修会に参加が許されたことに感謝します。

出発の前日に、咳が出始め、夕方から三八度の熱が出て、  
“これでは明日からの聖地は無理かな” と思いながら、お風呂に入って食事もせずに布団に入り、考えても仕方がないので、行けなかったら今回は許されなかったということだから、あとは神様にお任せしようと思いつきました。夜中に二、三回目を覚ますと、ずっと隣で家内が浄霊をしてくれていました。半分寝ているのか舟をこぎながら、その時は声をかけませんでしたが、心の中でありがとうと言っていました。

朝起きて、一番初めに体温を測ってみると三六・五度の平熱に戻っていました。お許しがいただけたのかなと、神様、明主様ありがとうございます”と感謝申し上げて、荷物をまとめて駅へ行きました。そこで一緒に行くYさん夫婦、Mさん、TYさん、YHさんと合流して出発、無事熱海に着くことができました。

熱海に着いてからは、Mさんは一人で熱海を散策、後の六人は、箱根に参拝に行くということでレンタカーを借りて出発しました。何事もなく三時に到着しました。箱根美術館に拝観して、それからお庭へいきました。見頃の紅葉には少しはやかたのですが、苔庭がとてもきれいでした。この時、数名の奉仕の方が、地を這うように苔の中の小さな草をとっていらっしやいました。この方達のお蔭で庭がきれいに保たれて、私たちが楽しめるのだなあと、感謝の思いがこみあげてきました。

美術館を拝観して、明主様がいらっしやる奥津城へ、徒歩ではかなりキツイ登り坂で、この時は最年長のYさんが、がんばって登られました。足はガタガタでしたが、なんとか皆が着くことができました。奥津城の前に立った時、空気が澄んでいて、とても気持ちよく感じました。Yさんの先達で祝詞を皆で奏上させていただきました。すぐく気持ちの良い空気を感じることができました。Tさんは箱根が初めてで、短い滞在時間でしたが、感謝いっぱい様子でした。熱海へ向かう途中、急いでいるバスが来たので、道を譲って車を止めると、ちょうど真っ赤な夕日が沈むところで、神様からご褒美をいただいたようでした。

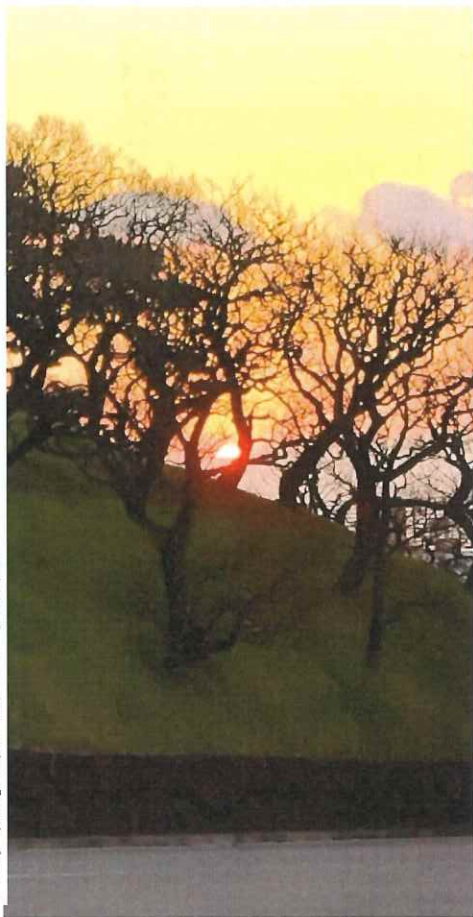
翌日は、いよいよ奉仕研修会の日です。早めに救世会館へ行き、参拝させていただきました。時間があつたので、MOA美術館を見学させていただきました。

研修会が始まり、各地から四〇名の方々が集まって来ら

れました。入所参拝を済ませると、さつそく、聖地全体の清掃奉仕です。班ごとに別れて奉仕にかかりました。落ち葉を掃き集めては取ると、振り返るとまた落ち葉が：そのような感じで奉仕が進み、最後にはきれいになりました。

夜は、聖地がいかに丈夫な岩盤の上に建てられていることや、明主様が熱海聖地建設の先駆けとして使っておられた東山荘の話を書く事ができました。その後、信者さんが自分のエピソードを交えながら、自己紹介などをして楽しい時間を過ごしました。

翌日、早朝六時に起床して、奉仕の準備をして前日の続きの清掃奉仕をするために瑞雲会館の玄関に出た時、海から上がる朝日を見ることができました。この日は、十一月



夜明けと共に清掃奉仕に

なのに半袖でもいらいの気温で、とても過ごしやすく気持ちよくご奉仕ができました。

その後、東山荘の拝観になりました。目の前の風景と写真の明主様が写っている写真が同じなので、この場所で明主様が活動しておられたのだなあと感慨深く思わせていただきました。救世教の先輩たちが守り繋いでくれているのだから、現代の私たちが触れることができ、明主様を感じることができると思い、先達の方々に感謝です。

今回の聖地宿泊奉仕研修会に参加させていただき、私が感じたことは、先達のご奉仕によって守り繋いでくださっていること、後の世代に引き継いでいく、そんな奉仕をさせていたいただきたいと思いました。今、感じていることを忘れることなく、毎日の生活の中で、不平不満を言う回数よりも、一回でも感謝する回数が増えるように、自分の中で取り組んでいけるようにしていきたいと思います。

最後に、研修会の中で、心に残った西村代表のお話は「明主様と聖地に直結する会では、明主様と私たちの間には誰もいないのです。皆横一列なのです。私たちひとりひとりが、明主様と直接繋がるのです。そして、互いに学び合い、支え合うのです」ということです。みんな横一列でご利用できていければいいなと思いました。

## 感謝奉告 ②

### 『明主様に倣いて』をいただいで

土佐みろく教会 H M

先日、所長先生より電話をいただき、「明主様の本が出版されました。何冊必要でしょうか」と言われました。私はどんな本か、どうして出版されたかも聞かずに「皆様の分を含めて六冊送ってください」と答えていました。後日、『明主様に倣いて』が届きました。とても美しい本で、どんなことが載っているかわくわくし、すぐに拝読させていただきました。

本の内容は『天国の礎』で何度も拝読させていただいたみ教えで心が落ち着きました。拝読を続けているうちに文章がとても優しく柔らかい、どうしてだろうと感じました。最後にお歌で心があたたかくなり、自然と涙が出てきました。//何故、どうして”と自分に聞きました。そうすると、以前の勉強会でお文字からお光をいただけるとみ教えいただいたことを思い出しました。

現在は、他宗教の問題、コロナの問題と信仰の環境は以前とはずいぶん変わってきています。//明主様は私たち信

徒のことをとても心配して下さっていて、霊界からお文字を通して浄霊をして下さったのだ。だから涙が出てきて心があたたかくなったのだ”と強く思いました。

私も八三歳となり、これから何をさせていただこうかとよく考えています。現在は一緒に土佐みろく教会に移籍した信者さんの相談相手として、そして、浄化をいただいている遠方の方々に遠隔浄霊をさせていただいています。これからも信仰活動を続けながら、信仰によってご縁をいただいた方々が、今日一日明るく楽しく、心裕かに暮らせませうようにご祈願させていただきます。



救世会館から望む相模灘



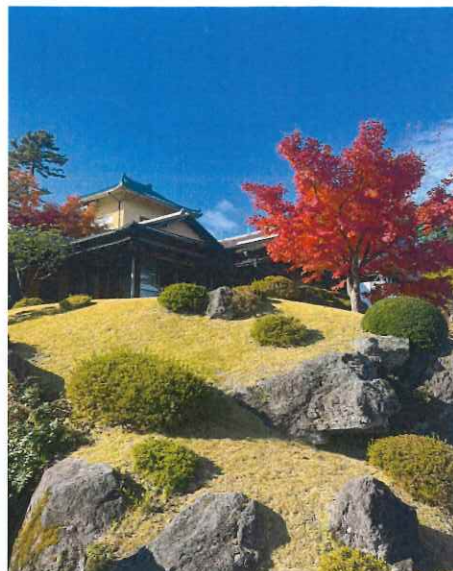
箱根苔庭の紅葉



MOA美術館三井家の片桐門と紅葉

聖地NOW

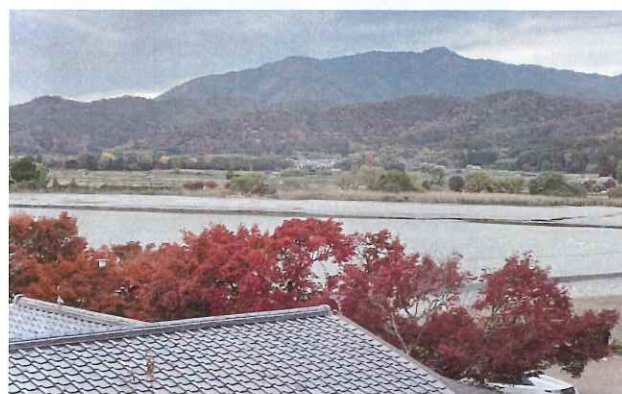
錦清らかに彩る



石樂園の紅葉



春秋庵には濃い紅葉



研修棟から広沢池を臨む



MOA美術館二条新町

## 新穀感謝祭、豊穰の感謝と決意のお捧げ



厳しい天候の中、自然農法によって収穫された恵が奉納された



EM開発者の比嘉教授が講演



自然農法実施者に対して行われた表彰



色鮮やかな自然農法の果物



供えられた自然農法産野菜

政府は、みどりの食料システム戦略に基づき、有機農業に地域ぐるみで取り組むことを加速させている。そのため、技術指導や人材育成について、長年自然農法を実施・推進してきた世界救世教の関連諸団体に協力を要請してきていることが紹介された。また、祭典第二部では、生物研究者から、土の力とその働きについてプレゼンされ、続いて登壇した比嘉琉球大学名誉教授は、今後更に、教祖の教えが、世界の食糧問題解決に向けて、重要な働きをするだろうと言及した。

## 神仙郷建造物が文化財登録へ

山月庵・日光殿・箱根美術館本館・別館・休憩所の5つの建造物が、このたび文化審議会より国の登録有形文化財に登録するよう答申されました。登録が実現すれば、神仙郷内の登録有形文化財(建造物)は、(平成一三年登録)「神山荘」と合わせて六件になります。

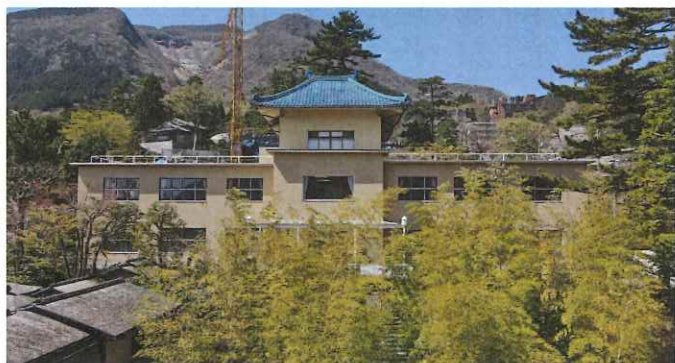
①山月庵



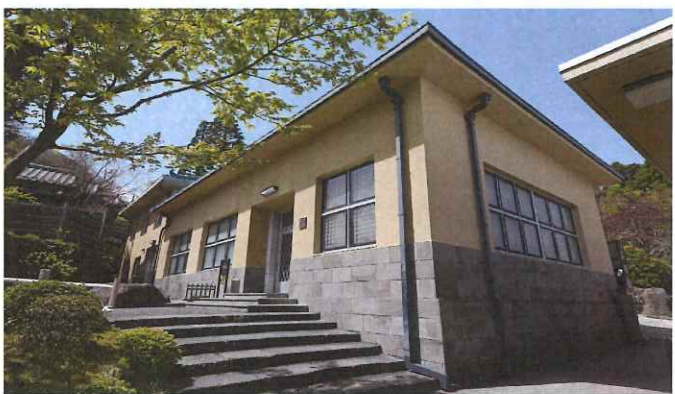
②日光殿



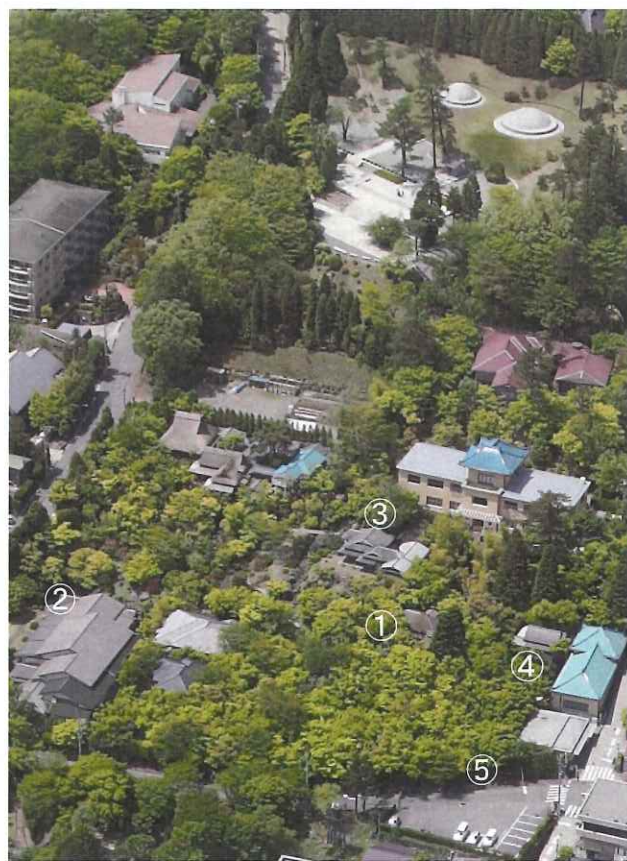
③箱根美術館本館



④箱根美術館別館



⑤箱根美術館休憩所



## シリーズ 明主様(10) “実業の道”

### 母の死

教祖の成功を誰よりも喜んでくれたのは、ほかならぬ母の登里であった。登里が嫁に来たころには、まだ岡田家には、曲がりなりにも、幾ばくかの財もあり、土地もあった。それがすっかり没落して、ずいぶんつらい思いもしたが、末息子すえむすこが成人し、昔のあの繁栄がまた岡田家をおとずれたのであった。このまま順調に発展してくれば、喜左衛門の時代を遙かはるに上回る隆盛りゅうせいになるだろうと期待できた。登里は、「この子はどこか普通の子と違う」と思い続けてきた自分の気持ちうれが、単なる母親の欲目ではなかったことを嬉しく感じたに違いない。と同時に、この様子を夫の喜三郎に一目たりとも見せたかったと残念に思ったことであろう。しかし、その人はすでにこの世にいなかった。

また、おおらかな姑しゅうとめでもあった登里は嫁のタカが気に入って、その内助ぶりを頼もしく思っていた。あるときタカの母のいわに、

「タカさんが嫁に来てくれたから、商売に運が向いてきて、どんどん発展します。」と言った。すると、日ごろから教祖の手腕を見抜いているいわは、

「いいえ、それは茂吉さんが偉いからですよ。」と答えるといった親同士のほほえましい会話がかわされて

いた。

お手伝いも二人置き、晩年の登里は何不自由な生活であった。きつとそれまでの埋め合わせを一度に受け取る思いであったろう。

明治四五年（一九一二年）の五月、登里は父・貞斎の故郷である信州の須坂すさかの親類の家へ遊びに行った。須坂の親戚の中には、岡田商店の定員として東京へ働きに来ている者もあって、付き合いは日ごろから深かった。教祖もときに須坂へおもむき、伯母のかつが経営する料亭「松ヶ枝」に旅装を解いて、さらに須坂から奥へはいった山田温泉に遊んだものであった。教祖が常宿じょうやどにしていた「藤井旅館」は、「風景館」という名で今も続いている。

登里が須坂へ行って一月ほどしたころ、登里から東京へ帰るといふ電報が届いた。教祖はちょうどそのころ、店員を連れて関西へ旅行中であつた。

上野で汽車を降りた登里の顔色は、出迎えに来た武次郎と、嫁のすえが思わずハツとしたほど青白かつた。二、三日して医者にもみてもらうと、腎臓炎じんぞうえんとの診断であつた。床についてから登里の容態は急激に悪化した。日ごろの気丈きじょうな性格にも似ず、「どうも今度は駄目なように思うから、茂吉を呼んでおくれ。遺言したいこともあるから」と言う。さつそく旅先へ電報を打つたが、あいにくなことに出発したそのあとへあとへと電報が届き、ついに連絡をとることができなかつた。登里は教祖の帰りをひどく待ち焦こがれ、



口を開けば「茂吉はまだなのかい。」と聞く。看病している武次郎とすえ、夕方の三人も気が気ではなかった。

そのうちに、何も知らずにひよっこり教祖が帰って来た。うつつつとしていた登里は、一瞬しつかりとした顔になつて、その姿を一目見るなり、

「ああ茂吉、帰って来てくれたのかい。」

と言つたが、それが登里の最後の言葉となつた。愛する息子を見るまではという、母の思いが、とうに事切れるはずの命を一日延ばしにこの日まで、永らえさせていたのである。

それにしても、登里には言い残しておきたいことが数多くあつたはずである。みなは、こんなことなら、もつと早く会わせるようにすればよかつたと今さらながら悔やまれてならなかつた。登里がこの世を去つたのは明治四五年（一九一二年）五月二五日、享年五七歳、夫・喜三郎の七年目の命日を過ぎてから三日後のことであつた。

登里は表に立つて物事を切り回すという性格ではなく、むしろ男に寄り添つて陰から支えていくという、目立たない、しかし、気性のしつかりした婦人であつた。長い貧困の時代も、登里の力があればこそ乗り越えることができたのである。少々気難しいところのあつた夫を助け、小さな子供を育てながら、栄養失調になつてまで家を守り抜いた姿には、本来弱いはずの女性が持つ、不思議なたくましい生命力が感じられるのである。子供のため、また家族全体

のために無私になつて献身する典型的な母性愛の持主であつた。優しさと芯の強さが渾然一体となつた女性のたくましさや身を付けた稀有な人柄であつた。

登里の粘り強さには、郷里、信州がもつ雪国特有の耐忍の精神、風土、寒冷の山国の血を感じさせる。長く厳しい冬を耐え、ひとたび雪が解けて暖かくなれば、春から夏へかけ、稲作に、山仕事に精を出し、やがて、収穫の秋を迎えて、来たるべき冬に備えて蓄える……そういった生活は、派手さこそないが、逆境に強い、不屈の気質を作りあげたのである。

また、教祖の一生は、行き詰つても、倒れても、ふたたび立ち上がつて歩き始める、強靱さに貫かれてはいるが、それは、この母から受け継がれたものである。

母が亡くなつた三、四日は、葬儀のあわただしさもあつて、静かに思い返す機会もなかつたが、初七日を済ませるころから、教祖は改めて、深い悲しみの中に亡母の愛情を偲んだのであつた。母の励ましがなければ光琳堂を始めることはなかつたであろうし、光琳堂を開かなければ後の岡田商店の繁栄はありえなかつたのである。さらには、失意の多かつた青春時代、教祖の悲しみを思つて心を痛めてくれた母、またいつも変わることなく才能を信じて力付けてくれた母、現人の失われた今、その母の存在は限りなく大きなものに感じられたのであつた。

## 感謝奉告 ③

### 聖地直結の会と私の新たな出発

名古屋栄グループ Y M

私は現在、MOA美術館でパティシエとして働かせていただいております。来てくださった方々の幸せを、お菓子をを通して実現できればと、お手伝いさせていただいていることに、日々感謝しております。

MOA美術館は現在、世の中に広く知られる美術館になっており、若い方々や、外国の方々にも、たくさん足を運んでいただいております。実際に、20〜30代に支持されているLemon8(レモンエイト)というアプリ内では「美しすぎるアートスポットランキング」にて、MOA美術館は第一位に選ばれました。そして、今年になって乃木坂46の「人は夢を二度見る」やWANDSの「名探偵コナンのオープニング曲RAISE INSIGHT」SONYやGOOGLEなどのプロモーションビデオの撮影場所に使われました。テレビドラマのワンシーンなど、多くのメディアにも利用していただいております。ですからMOA美術館は、これからますます人気が出てくることと思っております。

私は、このような素晴らしい美術館で働かせていただくことになるのは、想像もしておりませんでした。父が世界メシア教から「明主様と聖地に直結する会」に入会し、世界救世教の信仰に戻ったとたん、不思議なご縁で、MOA美術館でパティシエとして働くお話をいただきました。それから、とんとん拍子に物事が進んでいき、今年の七月から働かせていただいております。このようになったのも、様々なご縁の中で、明主様が私に「道」をご用意くださったのだと感じております。

MOA美術館は、東方之光、いづのめ教団、「明主様と聖地に直結する会」の関係者が心一つになって働いています。これは、父から「世界救世教は、明主様のもとに心一つになる、世界の型の役割があるのだよ」と聞かされていることの現われ、そのものではないかと思えました。だから多くの来館者が、MOA美術館という和合の世界に引き寄せられているのではないかとも思っております。

MOA美術館の最高の芸術を通して、明主様のお大事になさってきたことが、世の方々を受け入れられつつあると、私は感じております。今後、MOA美術館がますます発展していきますように、パティシエとして努力してまいりたいと思います。それが、皆さんの幸せのお手伝いになり、明主様にお喜びいただけると、私は信じております。

心地よい豊かな自然に囲まれ、美術館からの海の眺めは最高に美しく、聖なる地で、のびのびと自分らしく働くこ

とができていることに、私は、感謝でいっぱいです。  
皆さん、おいしいお菓子をご用意して、お待ちしております。  
ます。どうぞMOA美術館にお越しくださいませ。

## 感謝奉告 ④

### 夫婦で相互浄霊ができる幸せ

徳島グループ T M

徳島グループでは「浄霊の実践を通して神様のお光を」の取り組みで今までの体験報告にあるようなご守護をいただけてきました。浄霊集会では互いに励ましあったり、気づかせていただくことがありました。帰幽された宮脇さんから、力限りの前向きなご用と明るさを示していただきました。太田先生や中川先生が、徳島のこれからのことに取り組んでいただき、毎月徳島へ聖地からの光を届けてくださっています。その光をつないでいく結んでいくという働きがこれからも続いていくように願っています。

先生や信者さんに会うと、私がハツとする言葉が伝わってきます。また信者さんに限らず知人を通して、私に必要な言葉が届きます。私自身が分かったことは、頑固で、

短期で、配慮が足らず、「まあいいかなあ」という中途半端で根気が弱いという、難儀な性格だということです。もちろん、我もあり、執着もありです。例えば、捨てるべきものがあっても、とりあえず横によけておく、捨てられない、戻ってくる、という具合で断捨離ができません。そのせいで心にはいつも行き詰り感がありました。

ある日、鳴門のOさん宅で、初めて会った人に、感謝献金のお話を聞いて衝撃を受けました。つい、そこで話したことの無い本音を話しました。その人の話を聞きながら、なんと綺麗な心で明主様一途な心の持ち主なんだろうと思いました。私は、なぜその人のように、神様を信じ切ることができないのかを考えました。心の奥底に、神様に任せ切れない心配執着がありました。私にとって、生きていくには心配することは不可欠で、ある意味、心配は良い事だと思っていました。同時に、もう一つ、けじめをつけていなかった記憶が蘇りました。自分の都合悪いことは、無かったことにしている自分、身勝手、「うっわ！」でした。み教えに照らしてみると恥ずかしく、情けなく、申し訳なく、明主様にお詫びしました。聖地で神様にお願ひして、今までのことをお詫びして、これからの間違いのないようにとご祈願をしました。情けない自分を、自分で引っぱり張って歩くしかないと思いつつ、気がつけば、心配から解放されました。

今は、これからどうしたらいいんだろうと感じていた私

とは別な自分がいることを感じています。そうして、来年は、今年知り合った人と共に、もっとたくさんのご用が許されるように、学びが許されるように、喜びが増えるようにと願っています

一方、家庭内では、主人が白内障の手術を受け、後の養生が大切と医者から言われ、私は主人にご浄霊のお取次ぎを始めました。その後、網膜剥離の予兆が見つかり、素早い処置で剥離を免れ、「安静にしない」という医師の指示で、私は、引き続きご浄霊のお取次ぎをしていくことになりました。

先月、私は聖地奉仕研修から帰宅後、階段の最上段から転落し、小さなコブを作ってしまった。主人に、「私にご浄霊をお取次ぎをしてください」とお願いして、しっかりお取次ぎいただきました。大変嬉しかったです。その後も家庭での相互浄霊に取り組むことができています。

二〇数年以上会えなかった、ある意味会うことを避けられていた親戚家族と、歓迎されて会うことが許され、来年の再会を約束して、これからも交流を継続できる仲間になりました。本当に嬉しいできごとでした。

聖地からの帰宅翌日は、大切な日でした。みたまやご奉斎です。親戚からのお土産をお供えして、次兄夫婦と共に天津祝詞と善言讃詞を奏上できたことは、ご先祖様のお力添えだったと感じます。

来年はやらなければならないことがたくさんあるように

感じます。聖地に参拝することで、お力をいただけるというみ教えは、私が想像していたよりも、はるか数倍もうえだと感じています。

奉仕研修会で会える同胞の人たちの笑顔を思い出しながら、励み努めていきたいと思えます。

## 感謝奉告 ⑤

### 子息に引き継がれる純な信仰

東大阪グループ NM

友人NT様が日々の中で感謝に気付く努力をされるため「感謝箱」に取り組まれていること、いつしかその姿が子息に映っていることに感動し、以前この「道」に奉告いたしました。この度、再びNT様からご子息の感謝献金をお預かりしました。その時にNT様が「今回は百円玉が主で、前回のようは一円玉ではないので、手数をかけることは軽減されると思います」とのことでしたが、「そんな心遣いは無用です」と伝えました。私は次のような逸話を伝えました。ある宗教の指導者に、一信徒が弟子入りを献金と共に申し出ました。指導者は快く歓迎し、弟子入りを認め

## 感謝奉告 ⑥

東大阪グループ O A

### 信仰仲間の支えに感謝

ました。それを聞いた資産家の貴族も、同じように多額の献金を示して、弟子入りを願ひ出しましたが、指導者はこれを拒みました。貴族は「なぜ私は駄目なのです」と尋ねました。すると指導者は、「先の信徒の献金はその人の全財産なのです。あなたの献金は全財産の何分の一でしょう。だから許さなかつたのです。彼は生命を賭しての希望なのです」だから金額でなく心意気が大事、ということを伝えました。一円玉、五円玉も百万も十万も真心の献金です。そのところに分け隔てはありません。神様に捧げる純なる心情を嘉すべきものがあります。そんなわけで今回の献金も真心の表われであることは、言を俟たないところです。いつもながら「NT様をして、ご子息の信仰あり」このことに感動いたします。

この献金の件があるまでに、ご子息は聖地参拝を許され、信仰信念の再確認を確たるものと思われ、新たな出発を期して「おひかり」のお浄めを願ひ出られ、心身ともに新鮮な心持ちになりました。

信念を貫くことは、中々通常の気持ちでは叶えられないものではありません。況して、そこに継続される信念を持たれ実践されているNT様のこと、そして確実に信仰の継承がなされていること、そして今回の報告に接することができたこと、これは私にとつても心躍る望外の幸せです。今後、私どもを含めての、益々の信仰の向上を願つての奉告とさせていただきます。

私は、高校卒業後、愛媛県の宇和島市から、東大阪にやって来ました。大阪に出てきて勤めたお店の方が、熱心な救世教の信者さんで、その人に勧められて入信が許されました。一緒に聖地参拝もさせていただきました。また、その方から、ご浄霊もよくいただきました。今回、ご浄霊がいただけなくなるというところで、Mさんたちと一緒に「明主様と聖地に直結する会」に來させていただきました。

私は小さい時から歌が好きで、お父さんが歌う曲を歌っていました。私は勤めていたお店で、カラオケの教室を一年やっています。

今回、日本作曲家協会カラオケ選手権の募集があつて、お店のお客さんが応募してくれていました。予選を通過して、一七〇七人の中に残り、七月二二日、決勝大会では東京まで行くことができました。私は、シニアの部で、お陰様で日本一になることができました。古希を迎えた私ですが、こんな素晴らしい賞をいただいて光栄です。本当に頑張つてき

て良かったと思います。

嬉しいことと共に、辛いことがありました。五月九日に私の弟の娘が、出産をひかえ病院に行つて、すぐ破水をして、血圧が下がり、そのまま亡くなつてしまいました。お腹の赤ちゃんは、時間がかかり過ぎたようで、生まれてすぐ植物状態になつてしまいました。今も頑張つて生きてくれています。私は何もできなくて、私をお世話をしてくださつているMさんに伝えたら、すぐに門塾先生とセンターの先生、信者さんにご祈願のお願いをしていただきました。そして、聖地でもご祈願をしていただきました。本当に感謝です。皆様のご祈願が、明主様に届いて、ご守護いただいています。これからどうなるか分からないけれど、命がある限り生きてほしいと思います。

ご祈願をしていただいた先生、信者さん、本当にありがとうございました。私も、これから少しでも、明主様に感謝と、私のできるご用をさせていただけるよう、取り組ませていただきます。



シニア部門優勝！



喜び一入のOさん

## 12月23日 御生誕祭 & 全国信徒集会のご案内

今年賜りました数々のご守護に御礼のご奉告と来たる新たな年の目標、並びにその達成祈願を併せて執り行わせていただきます。

会員の皆様におかれましては、万障お繰上げの上、熱海聖地における御生誕祭にご参拝ください。

なお、祭典終了後、御生誕祭を祝し「花房晴美・クラシックピアノコンサート」が開催されます。参拝席での鑑賞となります。執務棟会議室における聖地直結の会・全国信徒集会は、奉納演芸終了30分後の開始を予定しています。所要時間は約30分。ご参拝の皆様におかれましては、是非ご参加くださいますよう、併せてご案内を申し上げます。

## 神とツボ

夢や希望をもたない人は幸せになれない

あるとき、神様はこの世に存在する善のすべてをかき集め、ツボに入れ、フタをしました。そして、「絶対にフタをあけてはならぬぞ」といいながら、ある男にそのツボをあずけました。

ところが、その男はツボの中に何が入っているか知りたくてたまらなくなり、少しだけフタをあけてのぞき込みました。

すると、中に入っていた善は、次から次へと、隙間から出ていってしまいました。あわてて男がフタをすると、かろうじて残ったのが「希望」でした。

でも唯一残ったのが「希望」だったことは人々にとって救いでした。

出ていった善がいつかは帰ってくる、と人々の心の励みになったからです。



今年も最終月となりました。来年にはどんな願望(夢)をもっていらっしやいますか。夢を話し合ひましょう。私は八四歳の高齢で、夢も希望も小さくなりました。人生の楽しみもなくなっています。例えば、家から出て旅行する気力も、人と接して話す元気も、食事をすることさえ面倒になりました。

でも、明主様のお蔭と「明主様と聖地に直結する会」の先生方と信者さんの祈りと励ましによって、「来年もできるご用に頑張ろう」と夢を描いています。

今月は明主様の御生誕祭です。料理(ケーキ等)をつくって、家族中を喜ばせましょう。きっと明主様も真心を喜ばれることと信じます。

御生誕祭は「新たな歴史のはじまり」です。色々と問題があるとすれば、それは「全ては自分の試練だ」と覚悟を決め、困難に立ち向かひましょう。明主様はきっと「固く覚悟を決めた人には、必ずみ光をお与え下さる」と信じます。覚悟が「道」を開きます。

「新たな夢の向こう」には「何人にも幸せがある」と信じて祈りましょう。

## 令和6年 聖地祭典行事

月 日	聖地直結の会	東方之光	いづのめ教団
1月1日	新年祭・立教記念祭	立教祭	新年祭・立教記念祭
2月4日	立春祭	立春祭	立春祭
2月10日	教祖祭	紫微宮祭	教祖祭
3月1日	豊穰祈願祭	ご面会・豊饒祈願の日	豊穰祈願祭
4月1日	春季大祭	春の芸術祭	春季大祭
5月1日	月次祭	ご面会	月次祭
5月12日	平安郷全国集会		
6月15日	地上天国祭 (6/15全国信徒集会)	6/15・16地上天国祭	地上天国祭
7月1日	月次祭	ご面会	月次祭
8月1日	祖霊大祭	光輪祭・万国戦争犠牲者感謝祈願祭	祖霊大祭
9月1日	世界平和祈願祭	ご面会	世界平和祈願祭
9月14・15日	神仙郷宿泊奉仕研修会		
10月1日	秋季大祭	秋の芸術祭	秋季大祭
11月1日	月次祭	ご面会・豊饒感謝の日	月次祭
12月1日	新穀感謝祭		新穀感謝祭
12月23日	御生誕祭 (12/23全国信徒集会)	12/23・24御降誕祭	御生誕祭

### 〈 各地区・拠点行事 〉

月 日	聖地に直結する会
4月	九州合同月次祭(田川) 中部・北海道資格者会(熱海・執務棟) 関西(伊丹、川西、大阪北、神戸、明石)勉強会(神戸須磨) 祭事講習&事務研修(田川布教所) 四国資格者会(土佐みろく教会)
5月12日	平安郷全国集会 関西(淡路、東大阪、神戸、明石)勉強会(神戸須磨)
未定	学生・青年練成会(平安郷)



## 令和六年 教団柱石之神霊 年祭

一月	成田 顕徳	毘古之神霊	参与	二〇年祭	八月	中川 良人	毘古之神霊	参事	四年祭
一月	梶 安幸	毘古之神霊	副参与	五年祭	八月	野村 潤一	毘古之神霊	副参与	一五年祭
二月	西山 明夫	毘古之神霊	副参事	二年祭	九月	村上 和利	毘古之神霊	副参与	二年祭
六月	西村 憲一	毘古之神霊	副参事	二年祭	九月	武田 伸之	毘古之神霊	参与	一年祭
七月	寺田 正則	毘古之神霊	相談役	一五年祭	一〇月	則武 克明	毘古之神霊	相談役	一年祭
七月	開坂 正	毘古之神霊	副参与	一〇年祭	十一月	寺村 修武	毘古之神霊	副参与	一五年祭

※聖地直結の会は、世界救世教に功績のある御霊を、教団柱石之神霊として、箱根・紫微宮、熱海・祖霊舎にお祀りしています。

## 【お知らせ】

### □ ホームページ

世界救世教のホームページに、聖地直結の会、会だより「道」を掲載しています。

※個人情報保護などの観点から記事の一部に、変更があります。

検索方法：世界救世教 病貧争のない健富和に満ちた地上天国の建設へ

(sekaikyuseikyou.or.jp)

### □ 祖霊祭祀

『聖地直結の会』では、熱海救世神殿祖霊舎、箱根紫微宮に、お申込みいただいたすべてのご先祖様をお祀りさせていただいております。お手元の祖霊台帳を基に合祀させていただきますので、お持ちでない方はご連絡ください。

### □ ご献金・その他のお届け

毎月20日までに、お届けください。年祭・慰霊祭の申し込みも20日までにお願ひします。

グループの場合は、リーダーの方がまとめて振込みをされても結構です。

個人の場合は、教費・感謝献金・御玉串・年祭慰霊祭・各種申込み等、内容の明細についてはご連絡く

ださい。メールまたはファックスでも可能です。事務局に直接電話でお知らせいただいても結構です。メールアドレス、電話番号、FAX番号は二七頁の奥付をご参照ください。

### □ 送金口座

① ゆうちょ銀行 ↓ ゆうちょ銀行  
(記号) 12320 (番号) 58911131  
聖地直結の会

② 他銀行 ↓ ゆうちょ銀行  
(店名) 二三八 (店番) 238  
(普通) 口座番号5891113  
聖地直結の会

③ スルガ銀行 熱海駅支店601  
(普通) 口座 3618722

世界救世教 明主様と聖地に直結する会  
代表 西村正資

### □ 緊急のご祈願

緊急の事態、またはご浄化に関しては、聖地の御神前にてご祈願をさせていただいております。

ご遠慮なく、本部事務所までご連絡下さい。

### □ カレンダーとお手本について

長年皆様にご愛顧賜りましたカレンダーとお手本今号からお休みとさせていただきます。

世界救世教 明主様と聖地に直結する会  
(聖地直結の会)

〒413-0006

熱海市桃山町26-1 救世会館 1階

電話 0557 85 8060

FAX 0557 85 8185

[seichicyokketsunokai@outlook.jp](mailto:seichicyokketsunokai@outlook.jp)



No. 67 2023年12月15日発行



夢運ぶトナカイ